

## 付録②

### 井上 浩（いのうえひろし） 略歴



- ・日本におけるサツマイモ文化史研究の第一人者
- ・元サツマイモ資料館館長
- ・日本いも類研究会の元会長
- ・一般財団法人いも類振興会の元評議員
- ・川越市文化財保護審議会の元委員
- ・郷土史研究家（物産史・民俗学等）

一九三一（昭和六） 埼玉県の飯能町（現・飯能市）で四月五日に生まれる。

その後、旧制川越中学校（県立川越高校）を卒業し、東京教育大学経済学科（現・筑波大学）を卒業。

一九五四（昭和二十九） 県立浦和高校の社会科教師となる。はじめの五年間は定時制の通信教育部に勤務し、その後、全日制に移る。（約二十六年間）

一九六二（昭和三十七） 和子夫人と結婚し、はじめ川越市西小仙波に住み、やがて川越市岸町の現在地に移る。

※昭和四十年代より「川越いもの歴史文化」の研究をはじめ。

一九七一（昭和四十六）十二月、「川越いもの作り初め」の小論をはじめて発表。（『埼玉史談』十八巻第四号）

一九七七（昭和五十二）川越市文化財保護審議会の民俗担当委員となる。その後、二〇一五年（平成二十七年）まで約四十年間努める。

一九八〇（昭和五十五）県立松山高校社会科教師として転勤する。（約十二年間）

一九八一（昭和五十六）埼玉県文化団体連合会より第十四回「文化奨励賞」を受賞する。

埼玉の民俗学と地方史の研究による。

※ベリー・ドゥエル氏と出会い、川越いもの研究会をスタートする。

一九八二（昭和五十七）九月～十二月、「川越いもの歴史展」（蔵造り資料館）を企画開催する。同時に編著・冊子『川越いもの歴史』を発売。また、川越市制六十周年を記念した市民講座「さつまいもトータル学」の講師を務める。

一九八三（昭和五十八）十一月、「第一回川越いも祭」（市立福原公民館）を実行委員として企画開催する。

一九八四（昭和五十九）三月、市民活動団体「川越いも友の会」を発足。その後、中心的な役員として活躍。サツマイモ復権運動のさきがけとなる。

七月、『昭和甘藷百珍・増補改訂版』（たなか屋出版部）を発売。

編者川越いも友の会で、井上先生が編集長を務める。

十月、著書『サツマイモの話～川越イモとその周辺～』（たなか屋

出版部）を発刊する。

一九八五（昭和六十）五月、田中屋（田中利明氏）と川越初の「ベニアカ焼酎」（いも作り名人・松崎新治氏の紅赤使用）を企画協力。

著書『川越唐棧』（たなか屋出版部）を発刊。この本がキツカケで、市民有志による「川越唐棧愛好会」が発足し、川越唐棧の復活運動がはじまる。

一九八七（昭和六十二）八月、「鹿児島カライモ調査団」（団長・井上先生）として鹿児島県内の指宿試験地・指宿図書館・徳光神社をめぐり、鹿児島同好会と交流。

一九九〇（平成二）八月、「中国サツマイモ調査団」（団長・井上先生）として北京・済南・徐州・南京等のサツマイモ研究所を訪問し交流する。

一九九一（平成三）十月、編著『現代中国のサツマイモ事情』訪中報告書を発刊。

一九九二（平成四） 高校教師を定年。四月、いも膳の「サツマイモ資料館」館長となる。

資料館は平成元年四月にオープンし、三年間は山田が館長を務める。資料館設立の夢は、昭和六十年頃より、井上先生が言い出したことだった。一九九五年の「戦争とサツマイモ展」、二〇〇五年「サツマイモ伝来四百年展」等を企画。二〇〇八年六月に閉館するまで、十七年間館長を務めた。

一九九七（平成九）十月、編著『紅赤の百年』冊子を発刊。

二〇〇一（平成十三）九月、編著『イラスト吉田弥右衛門物語』冊子を発刊。

- 二〇〇二（平成十四）十月、編著『懐かしのサツマイモ 太白ものがたり』冊子を発刊。  
『Vegeticulture in Eastern Asia and Oceania』（国立民族学博物館）発行。第五章「Sweet Potato in Japan: Its Origin and Use」を執筆（英訳はベリー・ドウエル氏）。
- 二〇〇五（平成十七）九月、編著『焼き芋小百科』冊子を発刊。  
九月、沖縄県嘉手納町の「野國總管甘藷伝来四百年祭記念式典」において、長年の甘藷の啓蒙・啓発活動に対し「野國總管甘藷功労賞」を受賞する。
- 二〇〇七（平成十九）ベリー・ドウエル氏らとともに「小江戸川越観光親善大使」十三人の一人に選ばれる。
- 二〇一〇（平成二十二）一月、『サツマイモ事典』（いも類振興会編集）発行。企画編集委員を務める。
- 二〇一七（平成二十九）十月、編著『イラスト紅赤いも歴史物語』冊子を発刊。  
十一月、脳梗塞を起こし、一時入院する。リハビリ中も、ベッドの上で原稿を執筆する。
- 二〇一八（平成三十）十月、編著『紅赤百二十年の魅力』冊子を発刊。
- 二〇二三（令和五）書籍『川越地方のサツマイモ文化史』の原稿を残し、七月十一日、満九十二歳で逝去。

（二〇二三年九月、山田英次 作成）